

☞ City and Cemetery: Post-Halloween Talk by Fumi Tsukahara

都市と墓地 ☞アーティストたちの墓と墓碑銘は何を語るか？

1・パリの墓地とナポレオン(Napoléon Bonaparte)

フランス革命の執政時代に政令発布「すべての市民はいかなる人種、いかなる宗教であろうと埋葬される権利を有する」＝無宗教者、破門された者、役者、貧民にも適用

⇒第一帝政時代の1804年6月12日の墓所に関する皇帝令(décret impérial sur les sépultures du 12 juin 1804)で確定

⇒以後市内に宗派を問わない墓地 Cimetière が設置される（ペール・ラシェーズ墓地が最古）

2・パリ旧市内の主要公共墓地 Cimetières intra muros

Cimetière	区 Arr.	面積 Superficie (en ha)	永代墓所・墓地数		樹木数 Nombre d'arbres	創設年月 Ouverture
			Nombre de concessions ou de sépultures	埋葬者数 Nombre de personnes qui y ont été inhumées		
<u>Cimetière du Montparnasse</u> モンパルナス墓地	<u>14°</u>	18,72	35 000	300 000	1 200	<u>25 juillet 1824</u>
<u>Cimetière du Père-Lachaise</u> ペール・ラシェーズ 墓地	<u>20°</u>	43,93	70 000	1 000 000	5 300	<u>21 mai 1804</u>
<u>Cimetière des Batignolles</u> バティニョル墓地 (雑司ヶ谷霊園)	<u>17°</u>	10,42 約 11,00	15 000		880	<u>22 août 1833</u> 1874.9.1.

Pascal Moreaux, « Naissance, vie et mort des cimetières », *Études sur la mort*, Le Bouscat, L'Esprit du temps, vol. 2, n° 136, 2009

3・ペール・ラシェーズ墓地 Trivia :

⇒由来：ルイ 14 世の別邸があったためルイの山(Mont Louis)と呼ばれていたが、ルイ 14 世の贖罪司祭ペール・ラシェーズ Père La Chaise, confesseur du roi de France Louis XIV が長年住んでいたため、墓地化の際にその名を付けた。

⇒火葬場・納骨堂 crématorium-columbarium の設置：1887年11月15日の法律 (la loi du 15 novembre 1887) で火葬が許可され、ペール・ラシェーズ墓地に最初の火葬場。1963年にカトリック教会が火葬禁止を解除。2012年にはパリの全葬儀の45%が火葬。森有正 1911-76.10.18 火葬
⇒十字架の禁止：1905年12月9日の政教分離法(La Loi de séparation des Églises et de l'État du 9 décembre 1905)により宗教的標章の使用が私的な墓地や慰霊碑以外では禁じられたため、公共墓地から十字架が取り除かれた

⇒著名人の墓：シニャック、スーラ、ピサロ、バルザック、アポリネール、ショパン、モリエール、ジム・モリソン、エディット・ピアフ、オスカー・ワイルド、セルジュ・ゲンズブール etc.

4・ダダイスト、シュルレアリストの墓碑銘

アンドレ・ブルトン (André Breton 1896-1966) : バティニョル墓地

「私は時の黄金を探す」 Je cherche l'or du temps.

⇒「現実僅少性論序文」 Introduction au "Discours sur le peu de réalité" 1927

バンジャマン・ペレ (Benjamin Péret 1899-1959) : バティニョル墓地

「私はあいつらのパンは食べない」 Je ne mange pas de ce pain-là.

⇒司祭を冒瀆した同名の文章 1936 から

トリスタン・ツアラ (Tristan Tzara 1896-1963) : モンパルナス墓地

「詩人」 POETE

マルセル・デュシャン (Marcel Duchamp 1887-1968) : モニュマンタル墓地 (ルーアン)

「それに死ぬのはいつも他人だ」 D'ailleurs c'est toujours les autres qui meurent.

5・レディ・メイドとしての墓石 (デュシャンの場合の仮説) :

a 「手を加えられたレディ・メイド」 (Ready-made assisted, aidé) : 「自転車の車輪」 1913

a' 「泉」 (陶製便器) 1917=R.Mutt 1917 の書き込みあり

b 「変更を加えないレディ・メイド」 (Un-altered ready-made): 「瓶掛け」 1914

b' 「折れる腕に備えて」 (雪かきシャベル) 1915 =Ready-made という英語の呼称を最初に適用

c 「相互的レディ・メイド」 (Reciprocal Ready-made) = 「芸術と〈レディ・メイド〉の間にある矛盾を強調するためにレンブラントの絵をアイロン台として！使用」 (実現せず)

「私の興味を引いたのは、これ〔「瓶掛け」〕に、一種の旗とか色とかを、チューブの絵具からは出てこない色とかを与えることです。私は、問題のレディ・メイドに一文を書き込むことでこの色を獲得しました。この文もまた、詩的本質に属し、そしてしばしば普通の意味を持つてはならず、そんなふうに言葉、ものと戯れることのできるような文です。(以上、シャルボニエ『デュシャンとの対話』北山研二訳、みすず書房、一九九七年、六八、六九ページ)



Marcel Duchamp,
Porte-bouteilles,
1914 (1964)
(Séchoir à bouteilles ou Hérisson)

64.2 x 42 cm (diam.)